株式会社三共

TOBILINE 作業手順書

（足場組立編）

REV.1　2016.7.1

株式会社　三共　　作業手順書・災害予測リスクアセスメントシート

先行手摺り（後踏み側）　×　標準手摺り材（前踏み側）　パターン

〔工事種目〕	〔施工体制〕		〔工 事 名〕		出席者		
足場組立	（1次）						
	（2次）		〔工事期間〕　年　月　日～年　月　日	打合日			

NO	工 程（作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト（詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
	共通事項										
・事 前 準 備											
1	現場入場に必要な	・施工体制台帳		・作業体制の曖昧による指揮命令系統の混乱					・着工前に届出が完了しているか確認する	担当者	
	書類の提出	・作業員名簿	・年一回の健康診断・有資格者の確認	・健康診断・無資格作業・年齢制限作業等への対応	3	2	6	11	・各作業に必要な資格者の配置と資格者証の確認		
		・緊急連絡体制	・現場毎の緊急体制を確立すること（現場ルールに従う）	・事故発生時の対応の遅れによる災害の拡大					・現場に掲示する等、現場ルールに従う		
		・再請負通知書									
		・労務安全書類									
		・工事用車両届け（トラック）	・車検、保険の確認	・車両整備不良による事故の発生	2	4	2	8	・持込車両届け済証等を各車両に掲示しているか確認する		
		・持ち込み機械（電動工具）使用届け	・持ち込み前の整備及び確認	・整備不良、安全装置不備による事故の発生					・持ち込み機材に受理証のシールを貼っているか確認する		
2	送り出し教育の実施	・事業者又は安全担当責任者が、作業員を送り	・担当者が現場ルール、作業内容、安全事項等を	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による					・新規入場予定の職長を含む全ての作業員を対象とし実施する	担当者	
		出す日の一週間前より実施する	事前に把握する	現場での混乱、事故					・2次の会社作業員にも同様の「送り出し教育」を実施する		
		【実施日：　月　日】							・「送り出し教育」実施の報告書を参加者自筆署名し提出する		
		【出席者：　】									
		【　】									
		【　】									
		【　】									
		【　】									
		【　】									
		【　】									
		【　】									
3	仮設計画図の確認	・仮設計画図を確認する	・不明点の確認								
			・組立図作業範囲の確認								
			・作業手順書との連動								
4	作業手順書作成	・作業内容毎に、危険作業を洗い出し、災害予測を	・危険作業を洗い出し、対策することによる災害の減少と	・作業内容、手順が決まっていない事による危険作業の					・決められた作業手順の遵守と手順変更の禁止、但し、変更は協議	安全衛生推進者（所長）	
		リスクアセスメントを取り入れた方法として	事故0を図る	見落とし及び重大災害の発生					し了承が得られれば可能。変更は、作業員全員に周知徹底する		
		作成する							・決められた安全対策を守らせる		
	・各作業責任者選任	【氏名：　】							・作業責任者の明確化と資格者の適正配置	担当者	

可能性の定義
5　極めて高い　（そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4　高い　（気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3　やや高い　（気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2　低い　（ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1　ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5　死亡・後遺症傷害　（死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4　1ヶ月以上の休業　（休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3　1ヶ月未満の休業　（休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2　4日未満の休業　（休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1　傷薬程度　（かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5　頻繁に　（非常によく見かける）
4　多く　（比較的よく見かける）
3　時々　（時々見かける）
2　まれに　（あまり見かけない）
1　極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点　12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点　7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点　3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
・事 前 準 備（現地）											
1	新規入場者教育の実施	・作業着手前に必ず受講する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の確認及び	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による					・受講証明等、現場ルールに従う	職長	
		・受講時に送り出し教育実施報告書を提出	現状の現場状況を把握する	現場での混乱、事故					・作業所のルールや現場の状況を周知する		
2	作業主任者の配置	・足場組立解体作業主任者を選任する	・経験技術不足による足場の不備	・経験技術不足による足場の不備	2	3	2	7	・下請け事業主が選任し元請に報告する	安全衛生推進者（所長）	
		・足場組立解体職務の内容及び氏名を掲示する							・安全掲示板及び作業箇所に表示する		
3	作業前のKYミーティング	・当日の作業員の健康状態をチェックする	・各自正しい服装、安全装備、保護具の着用を点検する	・体調不良による事故	3	3	2	8	・健康状態により適正配置を行なう	担当者	
		・作業で予想される危険についての洗い出し	・全員参加で現地で行なう	・当日の作業内容不徹底による事故					・安全対策事項を確実に実行する	職長	
		対策をミーティング後、周知対策を立てる							・作業手順を守ること	作業員	
		・作業分担を決め、作業手順を全員で確認する	・経験を考慮し適正配置をする	・経験技術不足による事故					・各作業員の作業分担を決める		
		・製品及び使用工具の機能を点検する							・全員の参加（1人1言　全員参加）		
									・服装、保護具はきちんとする		
									・墜落制止用器具は腰の上にきちんとする		
4	現場確認後トラック搬入	・軟弱地盤、勾配、段差の有無	・事前に地盤、段差、配管等の確認	・トラックの傾き及び製品の荷崩れ	2	3	2	7	・事前に地盤、段差、配管等の確認		
		・配管、枡の有無									
5	立入禁止措置	・カラーコーン等で作業範囲内に第三者が入り	・朝礼時に立入禁止区域をアナウンスする	・第三者災害	3	4	3	10	・必要に応じてコーンバー（トラロープ）を使用する	職長	
		込まないように立入禁止処置をする		・車両等への接触事故					・立入禁止の標示を適所に掲示する		
									・必要に応じてガードマンを配置し、通行人、通行車両を誘導する		
									・必要に応じて笛、マイク等を携帯し適切な指示を行ない監視する		
6	製品の荷ほどき	・結束帯または、番線を切断し、製品をほどく	・周囲の確認	・結束帯または、番線を切断する前に傾斜等を確認する	3	2	2	7	・決して「大丈夫だろう」の判断をしない（製品の飛散）	職長	
			・大丈夫だろうの誤った判断をしない（製品の飛散）	・結束帯・番線等を踏みケガをする					・結束帯等をその都度片付け、1箇所に集める	作業員	
7	製品搬入	・足場材を運搬車から降ろす	・有資格者の配置（玉掛け、ユニック使用時）	・トラックからの資材の降ろし時に転倒・挟まれ・荷物の	2	4	2	8	・有資格者の配置（玉掛け、小型クレーン）	職長	
	※ユニック車		・資格、免許証を携帯する	落下等が発生し重大災害・死亡災害を起こす					・二人作業の徹底を行なう（玉掛け、ユニック使用時）	作業員	
									・積荷状態の確認を行ない、危険箇所を事前に把握する		
8	製品の運搬	・足場製品の間配り（手運び）	・製品を一度に大量に持たない	・製品搬入時の手足の挟み込みや躓き	2	3	1	6	・無理な製品搬入を禁止し、余裕を持った量の運搬を行なう	職長	
	（間配り）		・周囲の安全確認	・長尺製品運搬時に他者に接触する					・周りの作業員からの声掛けの徹底を行い、第三者災害をなくす	作業員	
			・TL先行手摺	・足の上に製品を落とす					・周囲の確認を行なう		
		・支柱、手摺、踏板、TL先行手摺等の製品を必要な場	取り扱いに注意						・製品を乱雑におかない		
		必要な数量を配置する									

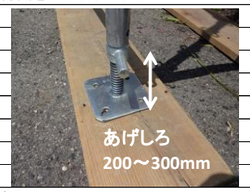
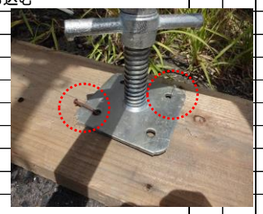
タイヤに輪留め設置

可能性の定義
5　極めて高い　（そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4　高い　（気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3　やや高い　（気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2　低い　（ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1　ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5　死亡・後遺症傷害　（死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4　1ヶ月以上の休業　（休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3　1ヶ月未満の休業　（休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2　4日未満の休業　（休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1　傷薬程度　（かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5　頻繁に　（非常によく見かける）
4　多く　（比較的よく見かける）
3　時々　（時々見かける）
2　まれに　（あまり見かけない）
1　極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点　12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点　7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点　3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
	１層目組立										
1	１層目（根がらみ）	・足場設置部の地盤を確認	・地盤を確認する（地盤沈下）	・軟弱地盤により、地盤沈下による傾き					・軟弱地では杉板、敷角を使用し地盤沈下を防止する	職長	
	※根回し									作業員	
	※地組み										
		・施工図より割り付け、躯体離れを確認する	・図面を確認し位置を決める						・施工図通り実施し、変更が必要な場合は、元請担当者と協議のもと		
									承認を得る		
		・立て込み位置を決める	・図面を確認し位置を決める								
		・敷板及び杉板を所定の位置に配置する	・地盤を水平にする	・ジャッキが外れ、足場が不安定になり倒壊を誘発する					・地盤沈下の恐れの無い場合は専用敷板でも構わない		
			・敷板の設置面は地面との隙間を無いようにする	・傾斜があることによりジャッキが不安定になる					・傾斜を事前に確認し傾斜がある場合はキャンバーを使用し		
									敷板を水平にする		
		・ジャッキベースを配置する									
		・ジャッキ高さを設定する	・200～300mm以内に設定する	・敷板からジャッキが外れる					・300mm以上の時は単管補強をする		
		（ジャッキのあげしろ）		・足場の倒壊							
		・桁行、梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱	・クサビを確実に打ち込む	・ハンマーで手足を打つ					・根がらみ手摺の打ち込み確認		
		を差し込み根がらみ手摺で連結する							・打ち込み不足が無いかを再確認する		
					2	2	2	6			
		・桁行方向のフランジに根がらみ手摺を打込み連結す	・TL根がらみ支柱を使用し出来るだけ低い位置に根がらみ	・水平、垂直の不揃いによる応力バランスの崩れ					・正確にレベルを出す		
			手摺を取付ける								
		・レベル調整と、躯体離れ、通りの確認をする							・根がらみ設置の際の手摺を確実に打ち込む		
		・梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱を差込み		・ハンマーで手を打つ					・手元を確認し確実に打ち込む		
		根がらみ手摺で連結する									
		・躯体離れを確認し2箇所以上釘で	・滑動防止						・釘打ちによる滑動防止を確実に行なう		
		ジャッキを固定する									
			※水平器等を使用しレベル確認を行う								
		・TL根がらみ支柱に支柱を立てる	・桁行方向、梁間方向の支柱を横架材で連結する	・支柱が倒れる					・連続して支柱を立てない		
		※支柱の組み合わせ		※スケールを使用して躯体との離れの確認を行う					※釘留めは2ヶ所以上行う		
		後踏み支柱は900支柱か、2700支柱	・後踏み支柱は作業床より2フランジ（900mm）残った状態にする								
		前踏み支柱は900～3600支柱									
		・梁間方向、桁行き方向の支柱を横架材で連結する		・ハンマーで手を打つ					・手元を確認し確実に打ち込む		
		※横架材（1500・1200・900・600・400mm）を									
		使用、組幅に合わせた踏板を使用									
		※手摺（1500・1200・900・600・400mm）を									
		使用、組幅に合わせた踏板を使用									
		以上の製品を用途に合わせて使用する									
			※支柱の組み合わせを考慮して（2フランジ残す）施工する	※1層目の踏板を取り付けるための横架材を設置する							
									横架材を支柱に設置する時は、上記写真の赤丸印に注意し設置すること		

可能性の定義
5 極めて高い （そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4 高い （気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3 やや高い （気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2 低い （ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1 ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5 死亡・後遺症傷害 （死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4 1ヶ月以上の休業 （休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3 1ヶ月未満の休業 （休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2 4日未満の休業 （休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1 傷薬程度 （かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5 頻繁に （非常によく見かける）
4 多く （比較的よく見かける）
3 時々 （時々見かける）
2 まれに （あまり見かけない）
1 極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点 12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点 7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点 3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
	・TL先行手摺取り付け	・TL先行手摺を取り付ける									
	（据え置き型先行手摺）	※地上より6フランジ目の位置より設置	・施工手順を守る	・製品で（TL先行手摺）指を挟む					・製品（TL先行手摺）を乱雑に扱わない	職長	
		躯体に背を向けた状態で左の支柱を起点に	・上部の回転クサビ、固定クサビはハンマーで打込まない	・ハンマーで手を打つ					・作業手順を守る	作業員	
		①回転クサビを支柱緊結部に差し込む							・手元を確認し確実に打込む		
		②固定クサビを右の支柱に差し込む			2	2	2	6			
		③地上から6フランジ目の左の支柱緊結部に固定する									
		④地上から6フランジ目の右の支柱緊結部に固定する							・コーナー部は予測した状況と異なることがあるので確認しておく		
		※左右の順番についてはどちらでも構わない									
		・踏板を取り付ける	・フックの稼動状態を確認	・フックで手を挟む	2	2	2	6	・手元を確認し横架材にフックをかける		
				・風圧でバランスを崩し転落する	2	3	2	7	・風向きを確認しておく		
									※フック部分に指を挟まないよう設置する		
									・フックに損傷が無いか確認する		
				※赤丸フックの外れ留めの確認							
		・昇降階段を取付ける	・各層毎に取付ける	・フックで指を挟む	2	2	2	6	・フックより離れた部分をつかみ取付ける		
		（手摺・中桟手摺も同時に取付ける）	・２層毎に踊場を設ける								
			※まずは腰手摺りを設置　※腰手摺り設置後	中桟手摺りを設置する　※赤丸のクサビを確実に打込む							
	2層目組立										
		・1層目への移動	・昇降階段を使用する	・足場をよじ登り転落する	3	4	3	10	・昇降は必ず昇降設備を使用する		
		・製品の荷上げ	・製品を投げない	・荷上げ中の製品落下	3	4	3	10	・声の掛け合い「取った」「ハイ」による手渡しの確認をする		
			・手渡し作業の厳守								
		・前踏み腰手摺、中桟手摺取り付け	・腰手摺、中桟手摺の	・荷揚げ・取り付け中の					・声の掛け合い「取った」「はい」による手渡しの確認をする		
		※取り付け順序	順で取付ける	製品の落下					・フランジにクサビが入ったことを確認をする		
		①腰手摺取り付け			2	2	1	5			
		②中桟手摺取り付け									
		③ハンマーで打込み									
		・支柱（建地）の立て込み	・踏板の上に2フランジ余りの支柱を使用する	・支柱立て込み中の転落製品の落下	3	4	3	10	・墜落制止用器具を使用する。		
			・支柱のジョイント部、	・クサビの打ち込み不足によるバランスの崩れ					・3フランジ目以上の支柱差しの禁止		
			差し込み部の確認	・強風時に支柱が抜ける	1	4	1	6	・ジョイントピン（抜け防止）を取付けた支柱を使用する		
			・ジョイントピンの確認								
		・横架材取り付け	・手元を確認ししっかり	・ハンマーで手を打つ。					・手元を確認し確実に打ち込む		
		※横架材以外に手摺1500・1200・900・600・400	叩き込む	・クサビの打ち込み不足によるバランスの崩れ					・打込不足がないか確認する		
					2	2	2	6			
									※赤丸ジョイントピン		

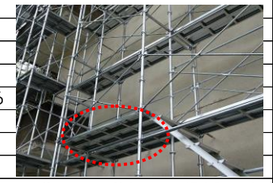
可能性の定義
5 極めて高い（そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4 高い（気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3 やや高い（気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2 低い（ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1 ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5 死亡・後遺症傷害（死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4 1ヶ月以上の休業（休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3 1ヶ月未満の休業（休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2 4日未満の休業（休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1 傷薬程度（かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5 頻繁に（非常によく見かける）
4 多く（比較的よく見かける）
3 時々（時々見かける）
2 まれに（あまり見かけない）
1 極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点 12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点 7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点 3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
	TL先行手摺取付け （据え置き型先行手摺）	・TL先行手摺取付け ※踏板設置位置より6フランジ目の位置より設置 躯体に背を向けた状態で左の支柱を起点に ①回転クサビを支柱緊結部に差し込む ②固定クサビを右の支柱に差し込む ③踏板から6フランジ目の左の支柱緊結部に固定する ④踏板から6フランジ目の右の支柱緊結部に固定する ※左右の順番についてはどちらでも構わない	・施工手順を守る ・上部の回転クサビ、固定クサビはハンマーで打込みしない	・製品で指を挟む ・ハンマーで手を打つ	2	2	2	6	・製品（TL先行手摺）を乱雑に扱わない、作業手順を守る ・作業手順を守る ・手元を確認し確実に打込む	職長 作業員	
		・踏板を取付ける	・フックの稼動状態を確認 ※赤丸フックの外れ留めの確認	・フックで手を挟む ・風圧でバランスを崩し転落する	2 2	2 3	2 2	6 7	・手元を確認し横架材にフックをかける ・風向きを確認しておく ・フックに損傷が無いか確認する		
		・昇降階段を取付ける	・二人作業で取付ける ・進入開口部にはエンドストッパーを取付ける	・バランスを崩して転落する	3	4	3	10	・昇降階段以外を使用して昇降しない ・階段手摺を取付け、中桟手摺としてブレースを取付ける		
		・踊場を取付ける	・2基毎に取付ける	・身体を乗り出し転落する ※階段には2基毎に踊り場を設置する	2	4	2	8	・墜落制止用器具を使用し作業する		
		・仮やらずの設置	・壁つなぎ設置前までの倒壊防止対策 ・おおよそ傾き45度で取付ける	・足場の倒壊	3	4	2	9	・有効敷地のある場所では仮やらずを設置して倒壊防止対策を講じる。		
	３層目組立										
	3層目組立	・2層目への移動	・昇降階段を利用する	・足場をよじ登り墜落する	2	4	2	8	・昇降は必ず昇降設備を使用する		
		・製品の荷上げ	・製品を投げない 手渡し作業の厳守	・荷上げ中の製品落下	3	4	3	10	・声の掛け合い「取った」「ハイ」による手渡しの確認をする		
		・前踏み腰手摺、中桟手摺取付け ※取付け順序 ①腰手摺取付け ②中桟手摺取付け ③ハンマーで打込み	・腰手摺、中桟手摺の順で取付ける	・取付け中の製品の落下	2	2	1	5	・声の掛け合い「取った」「はい」による手渡しの確認をする ・フランジにクサビが入った確認をする		

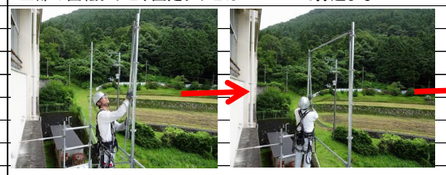
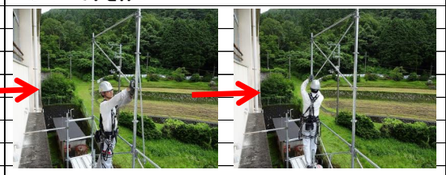
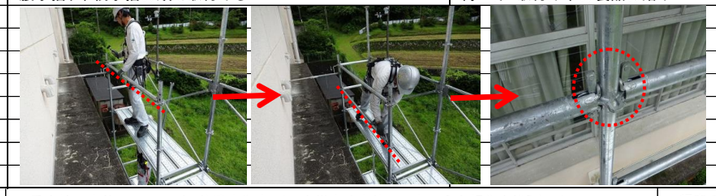


可能性の定義
5 極めて高い （そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4 高い （気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3 やや高い （気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2 低い （ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1 ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5 死亡・後遺症傷害 （死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4 1ヶ月以上の休業 （休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3 1ヶ月未満の休業 （休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2 4日未満の休業 （休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1 傷薬程度 （かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5 頻繁に （非常によく見かける）
4 多く （比較的よく見かける）
3 時々 （時々見かける）
2 まれに （あまり見かけない）
1 極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点 12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点 7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点 3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

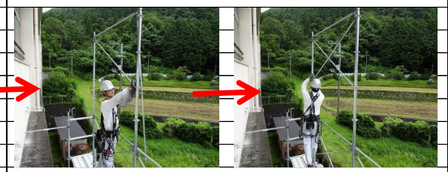
NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
		・横架材取付け ※横架材以外に手摺1500・1200・900・600・400	・手元を確認し しっかり叩き込む	・ハンマーで手を打つ ・クサビの打込不足による足場バランスの崩れ	2	2	2	6	・手元を確認して確実に打込む ・打込不足がないか確認する	職長 作業員	
		・壁つなぎを取付ける ※鋼材壁つなぎを水平2スパン、垂直2層毎に 取付ける	・躯体離れを均一に取付ける ・出来るだけ直角になる よう取付ける	・ハンマーで手を打つ ・工具を落とす ・足場の揺れによる落下	2	3	2	7	・手元を確認して打込む ・紐付き工具の使用 ・確実に固定しナットの締めすぎによる強度不足の場合は交換する ・必ず支柱に固定する（手摺に取付けない）		
		・TL先行手摺取付け ※踏板設置位置より6フランジ目の位置より設置 躯体に背を向けた状態で左の支柱を起点に ①回転クサビを支柱緊結部に差し込む ②固定クサビを右の支柱に差し込む ③踏板から6フランジ目の左の支柱緊結部に固定する ④踏板から6フランジ目の右の支柱緊結部に固定する ※左右の順番についてはどちらでも構わない	・施工手順を守る ・上部の回転クサビ、固定クサビはハンマーで打込まない 	・製品で指を挟む ・ハンマーで手を打つ 	2	2	2	6	・製品（TL先行手摺）を乱雑に扱わない ・作業手順を守る ・手元を確認し確実に打込む ※足場上では紐付き工具を必ず使用		
		・踏板を取付ける	・フックの稼動状態を確認	・フックで手を挟む ・風圧でバランスを崩し転落する	2 2	2 3	2 2	6 7	・手元を確認し横架材にフックをかける ・風向きを確認しておく ・フックに損傷が無いか確認する	職長 作業員	
		・昇降階段を取付ける	・二人作業で取付ける ・進入開口部にはエンドストッパーを取付ける	・バランスを崩して転落する	3	4	3	10	・昇降階段以外を使用して昇降しない ・階段手摺を取付け、中桟手摺としてブレースを取付ける		
		・踊場を取付ける	・2基毎に取付ける	・身体を乗り出し転落する	2	4	2	8	・墜落制止用器具を使用し作業する		
	4層目組立	・3層目への移動	・昇降階段を使用する	・足場をよじ登り転落する	2	4	2	8	・昇降は必ず昇降設備を使用する		
		・製品の荷上げ 	・製品を投げない、手渡し作業の厳守 	・荷上げ中の製品の取りこぼし					・声の掛け合い「取った」「はい」による手渡しの確認をする		
		・前踏み腰手摺、中桟手摺取付け ※取付け順序 ①腰手摺取付け ②中桟手摺取付け ③ハンマーで打込み	・腰手摺、中桟手摺の順で取付ける 	・荷上げ・取付け中の製品の落下	2	2	1	5	墜落制止用器具を使用する ・フランジにクサビが入ったことを確認をする		

可能性の定義
5 極めて高い （そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4 高い （気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3 やや高い （気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2 低い （ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1 ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5 死亡・後遺症傷害 （死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4 1ヶ月以上の休業 （休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3 1ヶ月未満の休業 （休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2 4日未満の休業 （休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1 傷薬程度 （かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5 頻繁に （非常によく見かける）
4 多く （比較的よく見かける）
3 時々 （時々見かける）
2 まれに （あまり見かけない）
1 極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点 12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点 7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点 3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
		・支柱（立地）の立て込み	・踏板の上に2フランジ余りの支柱を使用する	・支柱立て込み中の転落製品の落下	3	4	3	10	・墜落制止用器具を使用する	職長	
			・支柱のジョイント部、差し込み部の確認	・クサビの打ち込み不足によるバランスの崩れ					・3フランジ目以上の支柱差しの禁止	作業員	
		・横架材取付け	・手元を確認ししっかり叩き込む	・ハンマーで手を打つ。	2	2	2	6	・手元を確認し確実に打ち込む		
		※横架材以外に手摺1500・1200・900・600・400		・クサビの打ち込み不足によるバランスの崩れ					・打込み不足が無いか再確認する		
		・TL先行手摺取付け	・施工手順を守る	・製品で指を挟む	2	2	2	6	・製品（TL先行手摺）を乱雑に扱わない		
		※踏板設置位置より6フランジ目の位置より設置	・上部の回転クサビ、固定クサビはハンマーで打込まない	・ハンマーで手を打つ					・作業手順を守る		
		躯体に背を向けた状態で左の支柱を起点に							・手元を確認し確実に打込む		
		①回転クサビを支柱緊結部に差し込む									
		②固定クサビを右の支柱に差し込む									
		③踏板から6フランジ目の左の支柱緊結部に固定する									
		④踏板から6フランジ目の右の支柱緊結部に固定する									
		※左右の順番についてはどちらでも構わない									
		・踏板を取付ける	・フックの稼動状態を確認	・フックで手を挟む	2	2	2	6	・手元を確認し横架材にフックをかける		
				・風圧でバランスを崩し転落する	2	3	2	7	・風向きを確認しておく		
									・フックに損傷が無いか確認する		
		・昇降階段を取付ける	・二人作業で取付ける	・バランスを崩して転落する	3	4	3	10	・昇降階段以外を使用して昇降しない		
			・進入開口部にはエンドストッパーを取付ける						・階段手摺を取付け、中桟手摺としてブレースを取付ける		
		・踊場を取付ける	・2基毎に取付ける	・身体を乗り出し転落する	2	4	2	8	・墜落制止用器具を使用し作業する		
	3層目より以下繰り返し										
	最上段組立	・最上段への移動	・昇降階段を使用する	・足場をよじ登り転落する	3	4	3	10	・昇降は必ず昇降階段を使用する		
	・最上段組立										
		・製品の荷上げ	・声の掛け合い	・荷上げ中の製品落下					・声の掛け合い「取った」「ハイ」による受け取り確認をする		

可能性の定義
5 極めて高い （そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4 高い （気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3 やや高い （気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2 低い （ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1 ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5 死亡・後遺症傷害 （死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4 1ヶ月以上の休業 （休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3 1ヶ月未満の休業 （休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2 4日未満の休業 （休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1 傷薬程度 （かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5 頻繁に （非常によく見かける）
4 多く （比較的よく見かける）
3 時々 （時々見かける）
2 まれに （あまり見かけない）
1 極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点 12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点 7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点 3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）

NO	工 程 （作業区分）	作 業 手 順	ポ イ ン ト （詳 細）	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント 可能性	重大性	頻度	評価	安 全 対 策	誰が	備 考
		・前踏み腰手摺、中桟手摺取付け	・腰手摺、中桟手摺の順で取付ける	・ハンマーで手を打つ					・墜落制止用器具を使用する	職長	
		※取付け順序		・クサビの打ち込み不足によるバランスの崩れ					・フランジにクサビが入ったことを確認をする	作業員	
		①腰手摺取付け			3	4	3	10			
		②中桟手摺取付け									
		③ハンマーで打込み									
		・横架材取付け	・手元を確認ししっかり叩き込む	・製品の落下					・手元を確認し確実に打ち込む		
		※横架材以外に手摺1500・1200・900・600・400		・工具の落下	3	5	3	12	・打込み不足が無いか再確認する		
				・取り付け中の墜落							
		・支柱最上部に水平材を取付ける	・墜落制止用器具の使用						・墜落制止用器具を使用する		
			・しっかり打込む						・慎重に取付ける		
		・壁つなぎを取付ける	・躯体離れを均一に取付ける	・ハンマーで手を打つ	2	3	2	7	・手元を確認して打込む		
		※鋼材壁つなぎを水平2スパン、垂直2層毎に	・出来るだけ直角になるように取付ける	・工具を落とす					・紐付き工具の使用		
		取付ける		・足場の揺れによる落下					・確実に固定しナットの締めすぎによる強度不足の場合は交換する		
									・必ず支柱に固定する（手摺に取付けない）		
		・火打ちの取付け	・角度45度に近い状態で取付ける	・製品の落下	2	3	2	7	・慎重に取付ける		
			・水平に近い状態で取付ける	・工具の落下	2	3	2	7	・ひも付き工具を使用する		
				・取付け中の墜落	2	5	2	9	・墜落制止用器具を使用する		
	躯体間渡り	・屋上への躯体間	・墜落制止用器具を使用する	・工具の落下	2	3	2	7	・ひも付き工具を使用する		
		渡り取付け		・取付け中の墜転落	2	5	2	9	・墜落制止用器具を使用する		
			火打ちは極力支柱から取る	・荷上げ中の製品の取りこぼし	2	5	2	9	・声の掛け合い「取った」「はい」による手渡しの確認をする		
	・足場の補強	・クレーン、ロングスパンエレベーター、朝顔	・基本に基づいた壁つなぎ補強をする	・工具の落下	2	2	2	6	・ひも付き工具を使用する		
		生コン圧送管の設置箇所等		・取付中の製品の落下	2	3	2	7	・慎重に取付ける		
				・取付中の墜転落	2	5	2	9	・墜落制止用器具を使用する		
	・飛来落下養生	・外周面垂直養生ネット	・墜落制止用器具使用	・製品の落下	2	3	2	7	・墜落制止用器具を使用し慎重に取付ける		
				・取付中の墜落	2	5	2	9	・下部の立入禁止を行なう		
	・標識類の取り付け	・最大積載荷重、建地間の積載荷重	・周知できる箇所に取付ける								
		・足場の組立て等作業主任者									
	・余剰製品の片付け	・残製品、使用工具の片付け	・指定箇所に整理しておく　シート紐は全結束とする	・つまづき、転倒、転落	2	5	2	9	・安全通路を確保する		
	・作業終了後の	・足場の各所を点検する	・危険ポイントの洗い出し	・点検中の墜転落、転倒	2	4	2	8	・慌てない		
	各種点検	①脚部の滑動の有無	・不具合がある場合は報告し、使用禁止処置を取る								
		②壁つなぎ等の補強	・速やかに是正を行い報告し使用禁止を解除する								
		③養生材の確認									
		④開口部の点検　等									
	・清掃	・周辺の清掃	・たけぼうき、ホース等の清掃道具を準備している	・つまづき、転倒	2	2	1	5	・周囲、足元の確認		
	・作業終了報告	・現場監督に作業終了を報告									

※支柱の最上部に水平材を設置

※足場上では紐付き工具を必ず使用

シート紐は全結束とする

可能性の定義
5　極めて高い　（そのままにしておいたら、必ず事故が起きる）
4　高い　（気をつけていても事故が起きる可能性が高い）
3　やや高い　（気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い）
2　低い　（ミス・エラーがない限り、事故は発生しない）
1　ほとんどない（よほどの事がない限り、事故は発生しない）

重大性の定義
5　死亡・後遺症傷害　（死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの）
4　1ヶ月以上の休業　（休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの）
3　1ヶ月未満の休業　（休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者）
2　4日未満の休業　（休業4日未満災害で通院の必要のあるもの）
1　傷薬程度　（かすり傷程度のもの）

頻度の定義
5　頻繁に　（非常によく見かける）
4　多く　（比較的よく見かける）
3　時々　（時々見かける）
2　まれに　（あまり見かけない）
1　極まれに（ほとんど見かけない）

リスクの評価
＜評価点　12以上＞（最も重大災害が起こり易い）
＜評価点　7～11＞（重大災害につながる可能性がある）
＜評価点　3～6＞（事故の確率は低いが気を抜けない）